

令和7年1月21日

報道解禁（文化審議会文化財分科会終了後）

○ テレビ・ラジオ・インターネット

令和7年1月24日（金） 17:00

○ 新聞

令和7年1月25日（土） 朝刊

担当課：福岡県教育庁教育総務部

文化財保護課

直通：092-643-3875

内線：5388

担当：野木

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財の選択について

- 国の文化審議会（会長 ^{しまたにひろゆき} 島谷弘幸）は、令和7年1月24日（金）に開催される同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として、新たに4件を選択するよう、文化庁長官に答申する予定です。
- この中で、福岡県関連の無形の民俗文化財は2件で、官報告示後、福岡県内の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財は、計19件となる予定です。

〔記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財の選択に係る答申予定〕（福岡県関係：2件）

・ ^{くろさきぎ おんやまかさぎようじ} 黒崎祇園山笠行事（北九州市）

・ 九州地方の ^{うま} きじ馬・ ^{ぐるませいさくぎじゆつ} きじ車製作技術（九州地方）

※みやま市のきじ車製作技術を含む。

なお、別添資料の黒崎祇園山笠行事（「笹山笠」「飾り山笠」）、「きじ車（みやま市提供）」の写真についてはデータ提供可能です。

＜本資料に関する問合せ先＞

福岡県教育庁教育総務部文化財保護課（担当：野木^{のぎ}）

電話：092-643-3875

＜黒崎祇園山笠行事に関する問合せ先＞

北九州市都市ブランド創造局総務文化部文化企画課（担当：立野^{たちの}）

電話：093-582-2391

＜きじ車製作技術に関する問合せ先＞

みやま市教育委員会社会教育課（担当：猿渡^{さるわたり}）

電話：0944-32-9183

くろさきぎ おんやまかさぎようじ

③黒崎祇園山笠行事

- 文化財の所在地 福岡県北九州市
- 保護団体 黒崎祇園山笠保存会
- 公開日 毎年7月中下旬
- 文化財の概要

【選択の趣旨】

本件は、福岡県を中心に北部九州に分布する山笠行事の一つである。人形や岩山、屋形などの作り物を載せて巡行する山笠行事は、福岡市の博多祇園山笠行事がその成立も古く、周辺地域に影響を与え、「博多うつし」と呼ばれる山笠行事の広がりが見られる。本件はその一つであり、人形山である飾り山笠の形態や、喧嘩山笠と呼ばれる派手な曳き回しに山笠行事の性格をよく伝えている。北部九州における山笠行事の地域的展開や、我が国の山・鉦・屋台行事の変遷を理解する上で重要であるが、十分な調査記録がなく、変容も危惧されるため、記録の作成が必要である。

【文化財の説明】

本件は、福岡県北九州市八幡西区の黒崎にある春日神社、岡田宮、一宮神社の三社の祇園祭礼に行われる行事で、各町内から8基の山笠が出て地区内を曳行する。山笠は、2本の笹竹を山笠台に立てた笹山笠と、武者人形や屋形などで装飾した飾り山笠の2つの形態があり、夜には、山笠に明かりがつけられ、若者たちによって勇壮に曳き回される。また、素朴な形態をとる笹山笠は、山笠の原初的な形態を伝えているといわれている。



【笹山笠】



【飾り山笠】

④九州地方のきじ馬・きじ車製作技術

- 文化財の所在地 九州地方
- 保護団体 特定せず
- 公開日 通年
- 文化財の概要

【選択の趣旨】

我が国では、身近に入手できる自然素材を利用し、その地域特有のさまざまな郷土玩具が製作されてきた。そのなかでも木製玩具の製作には、木地師などの職人の伝統的な技術を継承するものが少なくない。本件も、そのような技術伝承の一つで、木工細工の技術を活かした、九州地方を代表する郷土玩具の製作技術として貴重であり、地域的特色も豊かであるが、伝承者の高齢化や生業の変化によって、現在は、福岡県や大分県、熊本県の一部に継承されるのみとなっている。技術伝承の変容や消滅のおそれが高く、早急な記録の作成が必要である。

【文化財の説明】

本件は、九州地方に広く伝承されてきた、野鳥の雉^{きじ}を象った車型の木製玩具を製作する技術である。子供が紐を付けて曳いたり、上に乗って遊んだりする玩具で、赤色や黄色などを基調に鮮やかに彩色されたものが多く、2つまたは4つの車輪が付く。里山で採取できる木材を材料とし、主に手斧や鑿^{てよきのみ}を使って作られる。製作の工程は、原料となる木材の採取から始まり、材料の切断、切りこみ、仕上げ、着色、車つけの順である。このような製作の工程と技法を基本としながら、形状や大きさ、車輪の数、色彩、模様などに地域的な相違もみられ、樹皮つきの木地のまま彩色しないで木目を活かして仕上げるものもある。



【手斧による製作の様子】



【製品（人吉・球磨地域のきじ馬）】

「④九州地方のきじ馬・きじ車製作技術」資料の補足

＜福岡県内の対象文化財＞

○文化財の所在地 みやま市

【文化財の説明】

きじ馬・きじ車の製作技術は、福岡県みやま市瀬高町^{せたかまち}を中心とする清水系^{きよみず}、熊本^{ひとよし}人吉市を中心とする人吉系、大分県^{くす}玖珠郡を中心とする北山田系の3つの系統に分類される。

清水系の中心であるみやま市のきじ車は、清水寺^{きよみずでら}の門前で売られる参詣土産として著名であった。伝承では、伝教大師^{でんぎょうだいし}（最澄^{さいちょう}）が唐からの帰国途中、光り輝く山に入ると、雌の雉^{ねむ}が現れて輝く合歡^{ねむ}の木へ道案内をした。大師はこの木で千手観音を彫り、堂を建てた。これが清水寺の始まりで、この伝説を基に25代住職隆安^{りゅうあん}法印が天保年間（1830～1844）に井上嘉平次^{いのうえ かへいじ}に作らせたのがきじ車の起源とされる。雄は緑と赤、雌は赤と黒で模様が描かれ、雌は雄よりも尻尾が長い。

かつては福岡県内の各地で製作され、福岡県知事指定特産民芸品にも指定されている。



きじ車（みやま市提供）